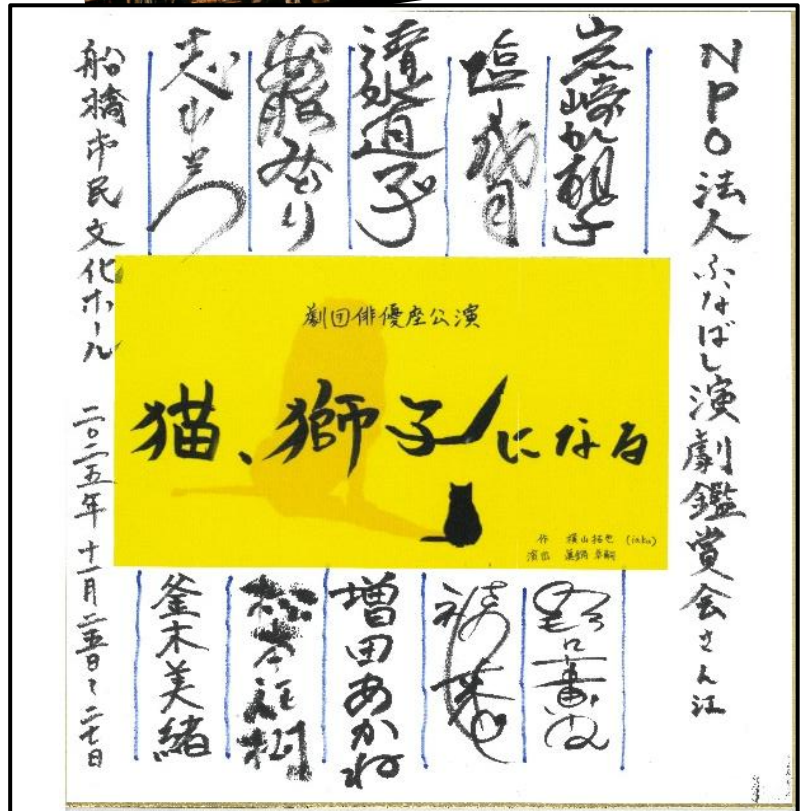


# 「猫、獅子になる」

## 感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



あの舞台の(狭い)スペースなのに、とてもわかり易い舞台展開(シーンチェンジ)でした。言葉も聴き易くとてもよい内容でした。ラストに救いがあるものは、帰り道に思い返しても暖かくなります。(ジャンプ 岡田真由美 60代)

セットの使い方がとても上手に思えました。美夜子さんに声かけする時、ずつと扉に向かって話しているのがもったいないです。家族の問題(中学、高校気にかけてもらえなかったなど)、身に沁みました。

(パンプキン 狩野美奈 50代)

大宇宙を始め、変わらないものはない。ましては人間の行動も心も例外ではないと言われている。そして人は、当事者に放り込まれないと「無関心」になるし、避けて通ろうとする。(私も)今回の『猫、獅子になる』は、無関心からの解放と展望をもらいました。特に後半の俳優さん方々の熱演に感動しました。(宙 田口誠雄 80代)

宮沢賢治の「私はライオンに半分同意する」というフレーズがとても意味深く、とても面白かったです。

(ゲキ友 安東青香 中学3年)

『猫の事務所』というと、『猫の恩返し』が思い出される。童話の方はまだ未読なので、今度読んでみようと思う。口ドリゴの獅子の演技が30年ぶりにやった演技にしてはすごく上手かった。ので、そこが1つ面白かった。

(亜童夢 神原健人 高校3年生)

1人の人間の言葉で、こんなにも人の人生を、家族の人生を苦しめることがあるんだと辛かった。美夜子さんはもちろん、個人的には妹さんの思いが刺さった。誤解がとけて、美夜子さんの止まった時間が動き出せてよかった。

(バジナ 谷口初江 50代)

生きづらい社会では「ひきこもり」の人が増えています。それは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題だと言えれば、本人も家族も少し楽になる気がします。家族も学校も会社も、いつの頃からか本音でぶつかり合ったり、けんかをしたりして相手を知り、自分と違う存在を理解し、受け入れていく大切な作業をしなくなっている気がします。妹の朝美が母に初めて本音を明かす場面、母が子の本音を初めて知る場面にぐつとききました。美夜子は何十年も苦しみました。少し光が見えたフイーナールで良かった。舞台が工夫されていて、その場面だけですがすべてがくろり広げられていて素晴らしいです。

(アマルファイ 柴野智代)

現代社会に潜む人の暮らしに見えにくい苦渋する姿を、見事に舞台化した作品に出合い、たいへん興味深く鑑賞した。舞台一面に生活空間を抽象化した椅子と机と階段と壁と扉とが広げられ、鎌田家、岬野家、劇団の稽古場、30年前の中学校の稽古場、小学校の体育館などが、くるくると場面ごとの舞台上早変わりしていく、一見殺風景ではあるが、みごとな装置が目に入ってきた。芝居の話の主題は「8050問題」ということで、正直いって知らなかった。昭和100年といわれる平和な多少豊かに暮らせる今日の日本になり、見えないところで人の生活の影で諸々の問題が生じているのだろうか。

そこでぼくらの子どもころをふり返ってみると、危うくイジメに遭ったり、小遣いを巻き上げられたりして、引つ込み児になりかかった時期があったかもしれないことを思い出した。だがまず、敗戦直後の数十年の金もない物もない厳しい時代に育ち、日々、夢中で自分を鼓舞して生きなければどこかにおいていかれてしまうし、兄弟が多くて隠れる自分一人の部屋などまるでなかつたし、親も一人一人子供のしよげたようすを見ても「どうした?」「元気がないじゃないか。熱でもあるのかい?」と声をかけるくらいで生きていかなければならなかつた。

そんなふうには、それとなく心を紛れさせて通過してきたから「8050問題」などは陰に隠れてきたのだと推測され

る。いつぼうこの芝居は、宮沢賢治の優れたユニークな作品が底にあり、うまく絡めて話がながれていて2重構造になつていゝらしい。「猫、獅子になる」というテーマがそれで理解できるように、まだ読んでいない賢治の物語を探し出して読んでみようと思つている。俳優座のみなさん、啓発される芝居を見せていただきありがとうございました。

(マゴメ ムラタ)

上演の2時間があつという間でした。片時も目を離せないやり取りや展開にひきつけられました。次々とあきらかになる母の悲しみ、長女の葛藤、次女の悩み、その間に立ち、家族を立ち直らせようとする次女の娘や夫の存在が救いとなり、暖かい言葉でつないでくれた脚本でした。獅子のセリフの中で、「みんな悲しい、みんな哀れ」などとありましたが、生きている人みんな抱えている困難やつらさ、すべての人たちに愛をもつて見守りたいという思いがこみ上げた演劇でした。

(宙 石橋須美江 70代)

親子、友人関係が大変でした。悪いことだけじゃない、そんな気持ちです。

(YMO 田中弘之 60代)

素晴らしい劇だったの一言です!観た者の心に深く響くものでした。ありがとうございました!

(無記名 60代 女)

あれはもう五十年以上前ででしょうか。『忍ぶ川』(熊井啓監督)という映画で、岩崎加根子さんを初めて観ました。加藤剛扮する主人公の姉・弱視で自身の役を演じておられました。主人公の嫁さん(栗原小巻)を「いい人」と言つて加藤剛の胸を叩くシーンが印象に残っています。本劇を観ていて、時代や家族、社会の在り様が随分と違うこの映画を、岩崎さんに託して思い出しておりました。

本作は宮沢賢治『猫の事務所』が下敷きになつているとのこと、なかなか意欲的な作品と拝見しました。最後にやつと本タイトル「猫、獅子になる」の意味が分かり、そのヒューマンな締め括りに拍手です。(10月から放送されているNHK朝ドラ「ばけげん」の脚本家は、横山拓也さんのツメのアカでも煎じたらと思ひます。)

ただ、惜しむらくは、賢治の作品をしっかりと読んでいないとこの劇は理解が難しいと思ひます。(有名な台詞だそうですが)「ぼくは半分獅子に同感です」は、本劇ではひきこもりの長女に言わせ、最終場面は草稿のセリフ「：かわいそう、：かわいそう」を言わせていました。私は草稿があつたなんて知りませんでした。ここでひとつ提案です。

チラシでは賢治作のあらすじが紹介されていましたが、「インターネット」『青空文庫』に載つています。是非前もって読んでみて下さい」程度の案内をしてもいいのでは、と思ひます。とまれ、よい劇

をありがとうございました。脚本、演出、役者さんによりしくお伝えください。(富士桜 朝日 崇 70代)

テーマが重いですね。少々観終わって気分が暗くなつてしまいました。演技は素晴らしかった。2Fでも充分わかりやすかつたです。(ピーチ 鈴木千春 60代)

冷たい人間性のママに、打ちのめされそうに見ていたけど、やつぱり終わりは何とか。(きなこ 無記名)

すばらしい演劇でした。現代の問題を皆さんで共有し、そしてどう生きていくか?励まされる内容でした。(無記名 70代 女)

中学の時に嫌なことがあつたのは分かつたけど、50歳まで引き込もるほどかなと思ひました。また、中学の部員にも顧問に説明したように、具体的に説明するべきだと思ひました。最後まで皆救われてないと感じたので、次女の夫が宝くじ当たつてほしいと思ひました。(ルナ 中西洸貴 高専3年)

物の配置が気になりました。色々な色などおかれていて、物の動かしも少なく、背景が夜の来訪者のようにしつかりなく、黒の家っぽい形をした物しかなかつたのが気になりました。

(子育てネット 奥田和佳 小学6年)

とても良かったです。感動しました。妹さんがお母さんに本音をさらけ出し、妹の夫が店を持つ夢を語った時涙があふれました。引きこもりの苦悩、でもその中にある希望も感じ、さわやかなラストでした。

宮沢賢治さんの『猫の事務所』の内容を知っていると、もつと感動して見れたかなと思います。「みんなかわいそう」という言葉の深さを考えさせられました。(クスノキ 土佐千代子 60代)

どうなることかと思っていたが、希望の光が見えました。宮沢賢治の作品は、とても大きな心で描かれている。世の中にはクラゲ先生のような人もいれば、ロドリゴ先生のような人もいます。劇団俳優座の皆さんのすばらしい劇に、心が暖まりました。

(ハッピープリンス 春日井治 70代)

先生がひどかった！親も、先生のひどさを見抜けなくて、美夜子ちゃんがかわいそう。ほんと、みんな悲しくかわいそう。そんな世の中。宮沢賢治、読まなきゃ！（バジナ 小林文子 50代）

(無記名 女)

初めてですが、とても良かった。

(21世紀 安元)

声が、言葉がよく分かり、心に訴える力がすごい！よく分からない処があったけど、私には考える機会がもらえてとても嬉しかったです。体を張って演じてくれてありがとう！

(斉藤令子 80代)

ロドリゴ君が出て来た事が、一番の驚きと衝撃で思わず声出ちゃいました。二役の演じ分けすばらしい！（無記名）

久し振りに劇らしい劇のテーマに出会いました。ネガティブな場面を強調し、一瞬このどうしようもない場をどのように着地させるのだろうと心配してしまいました。最後、「こういうふう

(無記名 70代 男)

本格的な演劇?!一瞬も目をつぶらず見入り、聞き入ってしまいました。いくつかのテーマの重さと、構成の巧みさ、演技力の確かさに大満足です。みんな獅子に！

(無記名)

とても面白かったです。役者さん、みなさん上手ですね。

(赤とんぼ 無記名 50代 女)

内容が面白かった。とくに最後の場面が一番おもしろかった。役者さんの迫力があってすごかった。役者さんの熱を感じた。今度もまた見てみたい。

(華まる 山崎遙太 中学2年生)

とても良かった。最後の劇中劇のセリフにジーンときた…。宮沢賢治の作品をあまり読んだ事がなかったが、読みたいと思った。役者の皆さん、声がとても良く聞き取れた。

(おいしい風 無記名 50代 女)

・今までで一番よかった。・台本のヒネリ、重層的展開、舞台の展開を考えた装置、照明、効果音、しずくの音etc スバラシイ！・お父さんの弱点、悪い点も入れたキャラにしては？最後のステージ、ステージ裏の客席の演出もいい。・俳優座のレベル、力ですかね、スゴイ！・いつもユーモアが欲しいと思ってきましたが、これくらい台本が良いとこのくらいのユーモアでもOK。・来て良かった。ありがとう、久しぶりに舞台を堪能！

(無記名 60代)

宮沢賢治の話らしい展開(笑)。「責める人も責められる人も、そばで見ている人たちもみんなかわいそうです」の世界観。様々なことが起こる日常生活の中にもあり得ることと、考えさせられた。程よく切り込んだ、久しぶりにガツンとした劇を観ました。残ってロビ―での話の中で「猫、獅子になる」の意味がよりはつきりました。良かった！

(亜童夢 伊澤輝美 70代)

涙出た…。本、読んでみるね。

(無記名)

今回は素晴らしい公演でした。今まで観た中でNo.1です。ありがとうございました。(無記名)

始めの方のシーンで、朝美が娘(掛ける言葉と思えないセリフがいくつかがあってイラつとしたが、姉が引きこもり、構ってもらえなかった次女の背景を知り、少し納得した。

真面目過ぎる美夜子のような人ほど、失敗した後立ち直るのはとても大変。周りの声があっても立ち上がるのは自分でしか出来ないことなんだ。きっかけがあつた美夜子は救われるとイイなと思った。(引きこもりの家族がいるので、色々きつかった)

(無記名 30代 女)

美夜子さんの心の傷の堀下げに引き込まれました。最後の獅子のセリフ「みんな、かわいそうなんです」ですが、言葉の裏に少し希望が含まれているような気がしてとても良かったです。

妹さんが心の内をさらけ出すシーンも、迫力があり、納得感のある言葉になっていて観ていて非常に緊張しました。ところどころに挟まれる会話も雰囲気壊さない程度に面白くユーモアがあり、(宝くじの場面など)シリアスになり過ぎず、ちょうど良いバランスで良かったです。舞台上色々工夫が凝らされていて、場面が変わってもわかりやすかったです。

(子育てネット 千田帆夏 中学生)

最初はつまらないと思いましたが、段々引き込まれました。ユニークな演出でした。最後は良い終わり方で涙しました。(石楠花 無記名 70代 女)

ふなばし演劇鑑賞会の例会をしばらく拝見しているが、総じての感想はわが国では築地小劇場以来の、いわゆる「新劇」らしい劇を選択し上演するという感想である。すなわちなんらかの問題を提示し展開する劇を、社会的な問題として扱う劇を上演している。

これは現在における最初の観劇にあつては、古いところかむしろ新鮮な演劇活動と映じた。この印象は今回も変わらない。変わらないどころかむしろ新鮮であつた。また今回は上演当日以前・当日・以降の運営サークル会にも参加させていただき、一回毎に会員が集まつて準備する活動の入念さが印象であつた。

今回の例会は俳優座制作の「猫、獅子になる」という芝居で、宮沢賢治の短編童話「猫の事務所」を、作者横山拓也氏によると、「もう一つのモチーフ」として使用している。だが一方、横山氏は本劇の第一の主題を「8050問題」と要約した。当初私は、高齢者介護の問題(80歳以降)と50歳代の息子や娘が親の介護をしなければならぬ現在、しばしば社会的な事件に至る問題と考えたが、横山氏は母親(蒲田妙子・演じるは岩崎加根子)を介護するのは彼女の息子ではなく娘(蒲田

美夜子・演じるは清水直子)であり、しかも彼女は「引きこもり」と設定した。

劇中、美夜子は高齢の、車椅子で生活の老いた母親の介護をすべきであるが、終始、部屋に引きこもつて出てこない。すなわち高齢者の生活介護の問題に、さらに「引きこもり(不登校など非社会性問題)」問題が入り込む。この重層的な現在の社会問題に、では宮沢賢治の「猫の事務所」の筋がどうオーバーラップするか?させるのか?私の興味はその点にもあつた。

まず、舞台美術製作部は、微妙に過去と現在が交錯するユニークな舞台装置を考案した。まず舞台中央、階段上高所に開かない白い扉。下に階段。その両側、舞台下手(観客から見て舞台左側)に美夜子の妹夫婦、(岬野朝美、演じるは安藤みどり。夫は岬野彰仁、演じるは塩山誠司)の若い、明るい会話。高齢の母親、妙子の邸宅の中であり、客間か?かなり上質のソファに彼らは座つて会話。

また舞台上手(観客から見て舞台右側)に机と椅子。ここでは美夜子の引きこもりの原因となつたかつての中学校時代の演劇部のメンバーと彼らの活動を指導する教師との対話がある。彼らは最後の劇について話しているが、どうやらうまく行かなかつたらしい。

またそれが、美夜子の挫折感、引きこもりの原因となつたらしい。ここでは初めて宮沢賢治の「猫の事務所」が言及された気がする。カマ猫イジメと黒

猫理事長の童話である。すなわち、組織の中の葛藤とイジメ。相応する演劇部での挫折と登校拒否、50歳代までの美夜子の引きこもりの存在が、劇の一つの焦点である。二つ目の視点は、高齢の車椅子使用の母親の生活ぶりとな後の生き方である。引きこもりの娘を持ち、高齢を迎え、自らも車椅子に座る母親は、だが、涙を見せない、気丈な、運命に負けない母親、老女と演じられた(岩崎加根子)。

美夜子の妹の夫は、劇のあとのホールでの観劇参加者と演じた役者さんたちとの交流会で会員のひとりから「明るい。やさしい」と言及された。だが、高齢の母親は、「この家を売る」と決断する。そして劇の最後、美夜子の挫折の発端となつた賢治の「猫の事務所」は、今度は劇中劇として実際に演じられる。一同、猫の尻尾付きの扮装。

最後、今まで閉ざされていた中央の扉は開き、中から獅子を演じる俳優さんが出て来る。そして事務所の解散を命じる。かつては猫の事務所の理事長、クロ猫であつた。彼もまた、何らかの葛藤を経験したようであつた。劇は彼の事務所の解散を命じるセリフと、「みんな哀れです。かわいそうです」というセリフで終わる。

美夜子の挫折と長年の引きこもりは「猫の事務所」の最後の再演で補填され、行き直され、ひっくり返されることになる。劇中劇と本劇の終わりがほとんど一致する、過去と現在の時間

が錯綜する、洒落た演出であると思つた。個人的には、私はかつてホームに入り、逝去した実母を思い出した。ホーム生活はいろいろあり、孤独であつたと推測するが、母は愚痴を言わなかつた。だが私(娘)と暮らしたがつた。そして母も家売った。観客それぞれに問題点を与え、「みんな哀れ」と締めくくつてくれた本劇に感謝する。

(ここの葉 水崎野里子)

### おめでとうございます!

#### 「猫、獅子になる」サイン色紙当選者

- |      |       |    |       |
|------|-------|----|-------|
| 1804 | クスノキ  | 土佐 | 千代子さん |
| 2332 | ジャンプ  | 岡田 | 真由美さん |
| 2335 | アマルフィ | 柴野 | 智代さん  |

※当選した方は申し出てください。



アンケート枚数	45枚	(回収率3.1%)
当日会員数	1,746名	
例会参加者	1,442名	(参加率82.6%)